

# ブラジルの金利引き上げについて

2015年1月22日

1月21日（現地時間）、ブラジル中央銀行は金融政策委員会において全会一致で政策金利の0.50%引き上げを決めました。これで同国の政策金利（翌日物国債レポ取引金利：Selic）は12.25%となりました。同引き上げは3会合連続となります。市場関係者の多くは今回の利上げを予想し、実施後も為替レートは強含みに推移しています。

## 《金利引き上げ決定に至った経緯について》

連続利上げ実施の背景としては、①インフレ抑制、②本国通貨の安定が挙げられます。ブラジルでは2014年7～9月期GDPが前期比で+0.10%と低成長にとどまっています。景気が低迷する中での実施であることから、当局のインフレ警戒は依然強いとみることができます。

- ①ブラジルでは、通貨安による輸入物価の高止まりや財政支出の拡張によりインフレ率が依然として高い水準にとどまっています。
- ②ブラジル・レアルは中東・ウクライナなどの地政学リスクが一旦収束した後も、原油、鉄鉱石など資源価格が下落しており主要通貨に対して弱含みに推移しています。

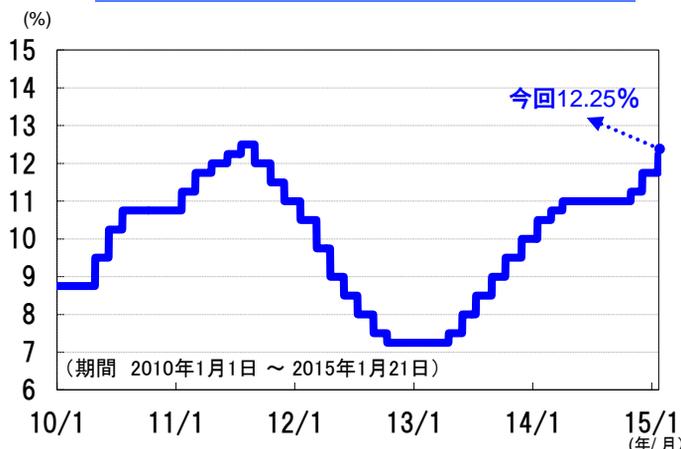
## 《今後の景気、為替レートについて》

景気については、2四半期連続マイナス成長の後、10～12月期には僅かながらプラスに転じました。ただIMFの経済成長率予測では2014年が+0.1%、2015年+0.3%、2016年+1.5%と低迷が続くとしています。足元でも資源価格は軟調で、鉱工業生産は鈍化、主要産業である自動車は生産、輸出とも前年比では減少が続いています。一方で個人消費には底入れ感もみられ、小売売上高は前年同月比で3ヵ月連続プラスとなっています。

また現在同国のインフレ率は、同ターゲットの上限（6.5%）近辺にあります。短期的に金融引き締め政策を強化することにより、早期の鎮静化を目指すと考えられます。経済失政を問われた大統領は信任回復のため民間金融機関幹部を財務大臣に起用しました。同氏は就任早々に財政支出の削減、増税を打ち出すなど財政再建に取り組む姿勢を示しています。

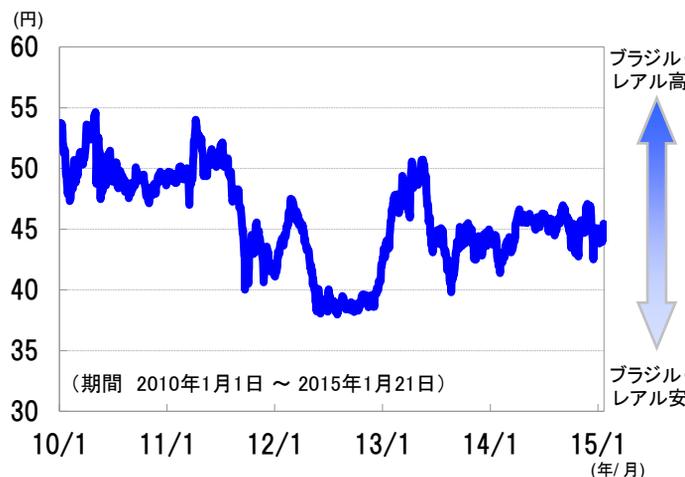
為替レートについては、下落場面では政府・中央銀行の本国通貨買いに支えられると考えられますが、当面、神経質な動きが続くとみえています。状況によっては安全資産選好の動きが強まる局面があることも考えられるため、当社でも引き続き同国に関わる市況動向を注視してまいります。

## 《ブラジルの政策金利》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

## 《ブラジル・レアルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。